

JENESYS 2.0

韓国大学生訪日研修団

訪問日程 平成26年11月4日(火)～11月13日(木)

1. プログラム概要

「JENESYS2.0」の一環として、「食文化」を研修テーマに大韓国外交部で選抜、派遣された韓国大学生訪日研修団計30名が、去る11月4日から11月13日までの9泊10日の日程で研修を行いました(団長:宋秀賢(ソン・スヒョン)大韓国外交部文化外交局文化交流協力課3等書記官、引率:朴譔媛(パク・ヘウオン)韓国国際交流財団人士交流チーム代理)。

日頃日本について学んでいても訪問は初めてという団員も多く、滞在中、東京都、大阪府、京都府で日本の大学生との交流や食文化に関する見学、体験を行ったほか、ホームステイや文化体験を通して、研修テーマ、日本の文化についての知見を広めました。

主催:日本国外務省、大韓国外交部

実施:公益財団法人 日韓文化交流基金、韓国国際交流財団

2. 日程

11/4(火)

到着(成田国際空港)

11/5(水)

研修に関するオリエンテーション、講義、歓迎昼食会、在京韓国大使館訪問、東京都水道歴史館見学

11/6(木)

拓殖大学訪問

11/7(金)

銀座ミツバチプロジェクト視察、京都へ移動、金閣寺見学

11/8(土)

日本人学生(当基金実施 訪韓研修団参加者)との交流会(龍安寺見学、日本料理作り、清水寺見学)、大阪へ移動、大阪の魅力についてのブリーフィング、ホームステイ対面式

11/9(日)

終日ホームステイ

11/10(月)

ホームステイから再集合、大阪大学訪問

11/11(火)

大阪木津卸売市場見学、東京へ移動、浅草寺・浅草見学

11/12(水)

研修成果報告会、茶道・着付け体験、外務省訪問

11/13(木)

帰国(羽田国際空港)

3. 写真

	
<p>(日本語) 11月5日 講義「和食；日本人の伝統的な食文化とユネスコ無形文化遺産登録について」(港区)</p>	<p>(日本語) 11月5日 講義「和食；日本人の伝統的な食文化とユネスコ無形文化遺産登録について」(港区)</p>
<p>(母国語) 11월 5일 강의 「와쇼쿠(和食) ; 일본인의 전통적인 식문화」와 유네스코 무형문화 유산등록에 대해서」(みなとぐ)</p>	<p>(母国語) 11월 5일 강의 「와쇼쿠(和食) ; 일본인의 전통적인 식문화」와 유네스코 무형문화 유산등록에 대해서」(みなとぐ)</p>
	
<p>(日本語) 11月5日 駐日大韓民国大使館訪問(港区)</p>	<p>(日本語) 11月5日 駐日大韓民国大使館訪問(港区)</p>
<p>(母国語) 11월 5일 주 일본 대한민국 대사관 방문 (みなとぐ)</p>	<p>(母国語) 11월 5일 주 일본 대한민국 대사관 방문 (みなとぐ)</p>
	
<p>(日本語) 11月5日 東京都水道歴史館見</p>	<p>(日本語) 11月5日 東京都水道歴史館見</p>

学 (文京区)	学 (文京区)
(母国語) 11월 5일 도쿄도 수도역사관 견학 (분교구)	(母国語) 11월 5일 도쿄도 수도역사관 견학 (분교구)
	
(日本語) 11月6日 拓殖大学訪問 (東京都八王子市)	(日本語) 11月6日 拓殖大学訪問 (東京都八王子市)
(母国語) 11월 6일 타쿠쇼쿠 대학 방문 (도쿄도 하치오지시)	(母国語) 11월 6일 타쿠쇼쿠 대학 방문 (도쿄도 하치오지시)
	
(日本語) 11月6日 拓殖大学訪問 (東京都八王子市)	(日本語) 11月6日 拓殖大学訪問 (東京都八王子市)
(母国語) 11월 6일 타쿠쇼쿠 대학 방문 (도쿄도 하치오지시)	(母国語) 11월 6일 타쿠쇼쿠 대학 방문 (도쿄도 하치오지시)
	
(日本語) 11月7日 銀座ミツバチプロジ	(日本語) 11月7日 銀座ミツバチプロジ

<p>エクト視察 (中央区) (母国語) 11월 7일 긴자 꿀벌 프로젝트 시찰 (주오구)</p>	<p>エクト視察 (中央区) (母国語) 11월 7일 긴자 꿀벌 프로젝트 시찰 (주오구)</p>
	
<p>(日本語) 11月7日 銀座ミツバチプロジェクト視察 (中央区)</p>	<p>(日本語) 11月7日 金閣寺見学 (京都府京都市)</p>
<p>(母国語) 11월 7일 긴자 꿀벌 프로젝트 시찰 (주오구)</p>	<p>(母国語) 11월 7일 금각사 견학 (교토부 교토시)</p>
	
<p>(日本語) 11月8日 日本の大学生との交流 (京都の食材をつかったおばんざい作り) (京都府京都市)</p>	<p>(日本語) 11月8日 日本の大学生との交流 (京都の食材をつかったおばんざい作り) (京都府京都市)</p>
<p>(母国語) 11월 8일 일본 대학생과의 교류 (교토의 식재료를 사용한 오반자이 요리) (교토부 교토시)</p>	<p>(母国語) 11월 8일 일본 대학생과의 교류 (교토의 식재료를 사용한 오반자이 요리) (교토부 교토시)</p>



(日本語) 11月8日 日本の大学生との交流 (京都の食材をつかったおばんざい作り) (京都府京都市)

(母国語) 11월 8일 일본 대학생과의 교류 (교토의 식재료를 사용한 오반자이 요리) (교토부 교토시)



(日本語) 11月8日 日本の大学生との交流 (京都の食材をつかったおばんざい作り) (京都府京都市)

(母国語) 11월 8일 일본 대학생과의 교류 (교토의 식재료를 사용한 오반자이 요리) (교토부 교토시)



(日本語) 11月8日 日本の大学生との交流 (清水寺見学) (京都府京都市)

(母国語) 11월 8일 일본 대학생과의 교류 (키요미즈데라 견학) (교토부 교토시)



(日本語) 11月10日 ホームステイ (大阪府大阪市)

(母国語) 11월 10일 홈스테이 (오사카부 오사카시)



(日本語) 11月10日 ホームステイ (大阪府大阪市)



(日本語) 11月10日 大阪大学訪問 (大阪府豊中市)

<p>(母国語) 11월 10일 홈스테이 (오사카부 오사카시)</p>	<p>(母国語) 11월 10일 오사카 대학 방문 (오사카부 토요나카시)</p>
	
<p>(日本語) 11月10日 大阪大学訪問 (大阪府豊中市)</p>	<p>(日本語) 11月10日 大阪大学訪問 (大阪府豊中市)</p>
<p>(母国語) 11월 10일 오사카 대학 방문 (오사카부 토요나카시)</p>	<p>(母国語) 11월 10일 오사카 대학 방문 (오사카부 토요나카시)</p>
	
<p>(日本語) 11月12日 研修成果報告会 (港区)</p>	<p>(日本語) 11月12日 研修成果報告会 (港区)</p>
<p>(母国語) 11월 12일 연수 성과 보고회 (미나토쿠)</p>	<p>(母国語) 11월 12일 연수 성과 보고회 (미나토쿠)</p>
	
<p>(日本語) 11月12日 茶道体験 (中央区)</p>	<p>(日本語) 11月12日 茶道体験 (中央区)</p>
<p>(母国語) 11월 12일 다도 체험 (주오구)</p>	<p>(母国語) 11월 12일 다도 체험 (주오구)</p>

	
<p>(日本語) 11月12日 外務省訪問(千代田区)</p>	<p>(日本語) 11月12日 外務省訪問(千代田区)</p>
<p>(母国語) 11월 12일 외무성 방문(치요다구)</p>	<p>(母国語) 11월 12일 외무성 방문(치요다구)</p>

4. 参加者の感想

◆印象的だったこと

○研修テーマである「食文化」に関して

- ・食べ物には刺激的な調味料を避け、健康に配慮するという点も驚いた。事実、研修中に日本食を食べていたが、一度も食あたりをせず、健康に過ごせた。
- ・日本の料理体験が印象深い。考えていたよりも甘く、塩っ辛い味が強く、ソフトな味が多かった。
- ・韓国で日本食を多く食べて来たが、実際に日本で食べた和食は全く違って新鮮だった。料理教室で和食を作り、食べ、日本人は多様な肉汁ではなく、全ての料理には主にだしを利用して味わいを出していることを知った。また、期待より塩辛く、甘みが強かった日本食を食べてみて、韓国にある日本食の店の料理がどれだけ韓国人の口に合うように改善されているのかを知った。
- ・和食についての講義を聞いた時に、日本食に韓国食と中華料理に似た料理が多い理由を知れた。韓／中の食文化の影響からも日本だけの味を出し、ユネスコにまず食文化を登録した日本人の底力を凄いと思った。
- ・日本の伝統的な和食と日本人の食事方法について詳しく経験できる良い機会だった。
- ・和食の多様な味、日本だけの食べ物の特性と韓国食との違いを知れたことが印象深い。
- ・自分一人では経験できない日本食、家庭料理作りやお好み焼き体験、旅館の会席料理まで多様な経験ができた。材料本来の味をいかしながらも美的な美しさを追及する和食の魅力をきちんと感じる事ができた。

○ホームステイに関して

- ・日本人の生活、食文化を身近に感じる事ができた。また、ホームステイを通して現代の日本人の習性、生活様式、家庭料理を体験し、感じる事ができた。ホームステイの期間が短く感じ、残念だった。
- ・ホストが温かい笑顔で、細かいところまで気にかけてくれ、助けてくれ、教えてくれた。その時程自分が日本語をできるということに感謝をしたことはなかった。ホストと話し、共感し、笑え合う事ができたことが自分にとって慰めとなった。帰国後は日本人の親切さを伝えたい。
- ・伝統的な韓国人の民族情緒により日本を否定的にとらえており、そして先進国だということ以外は知らなかった。ホームステイをきっかけに、実際の日本人の生活と、文化に触れる事ができ幸せだった。文化交流は言葉では簡単に言えるが、情を分かち合えなければその意味を活かす事ができない難しいものだ。今回のホームステイを通して、不便なく楽しく過ごすことができ、最後に大阪を発つ別れの場所まで来て下さったホストが本当にありがたく、初めて日本語を一生懸命勉強しようと思えた。
- ・ホームステイホストがとても良くしてくれ、別れる時には涙が出るほどだった。
- ・ホームステイを通して「真心をこめた歓談」が何かを強く感じた。本当の家族のように情も厚く迎えて下さり、日本の家庭文化を色々と教えて下さりありがたかった。

○同世代との日本人の交流に関して

- ・日本の大学生との交流も楽しかった。同年代の日本人と友達になれて嬉しく、韓国に帰っても途切れなく連絡を取り合いたい。

○伝統、文化に関して

- ・着物体験と茶道体験は、伝統文化体験の機会であったと同時に、簡単には接することができない文化を体験できる良い機会だった。

○人間性について

- ・日本という国は個性を重視し、開放的だとも思うが、見えない規則の中で秩序正しく住んでいる国だと思う。また、自身に任せられた仕事に責任を持って臨む国民性だということを知った。
- ・初めての日本訪問だったが、一番驚いたことは国民性だった。言葉にしなくても左側通行を守り、列に並び、その上自動車のクラクションも鳴らさない姿に配慮の心を感じた。
- ・駐車場の管理人、警備員、バスの運転手に至るまで制服を着、一人一人に挨拶をする姿からは職業へのプライドを感じ、日本は職人の国だということを実感した。
- ・道一つ聞いても親切に教えてくれ、「必ずたどり着けるように」と言ってくれる程に大変親切だったことが感動的だった。知らずにぶつかったとき、先に「すみません」という人々が本当に印象的だった。

○その他

- ・大使館、外務省を訪問し、マスメディアを経由せず、両政府の直接的な意見を聞くことができたことが一番良かった。
- ・食文化が研修のテーマだったが、「食」だけではなく、日本人との交流を通して、自分が約4年間日語日文学科を専攻し、学んできたことがとても限定的だということを感じた。一国の文化を理解するということは、視覚+聴覚+嗅覚そして味覚、触覚に至るまで、全ての感覚を兼ね備えた時に可能であることを、このプログラムを通じて感じた。
- ・日本のどこに行っても基本的なインフラ整備ができていると感じた。都市化がかなり進んでおり、東京、大阪、そして京都さえも大都市として発展していたことが印象深い。
- ・全般的に一般の旅行では体験することが難しい活動が多かった点がとても良く、大変満足している。
- ・日本の大学に複数専攻がない点が不思議だった。日本の大学では一つの主専攻を勉強しながら、文系、理系関係なく多様な学問の領域を融合して学んでいる。その点は教科の統合と創意的な人材を養成する面から良い点だと思った。
- ・ホテルの近くにあった173mの高さを誇る「梅田スカイビルディング」は1992年に建ったと聞いたが、その当時に韓国の技術力では建設できなかった建物だ。日本の技術力が韓国の技術の10年先を行っているとの言葉のように、今回の研修を通して接した日本の技術力に感心した。
- ・外交というものは、冷たい論戦が優先なのではなく、人と人との交流、相互理解と信頼を基に行うものだということを知った。

◆自国の人に伝えたいこと

- ・日本の優秀、勤勉性を伝えたい。
- ・日本人は配慮、迷惑に気を遣う国だということだ。毎朝商店ではショーウィンドウを磨き、道を掃除することが当然になっており、他の人に風邪がうつらないようにマスクを着用する姿などが

ら配慮の国だということを実感した。

- ・自分の大学の学生たちが持っている、留学への恐れをなくしてあげたいと思う。実際に日本の大学に訪問してみると、自分が通う大学と違いはなく、日本の学生たちも全員親切でフレンドリーだった。他の国、他の学校への留学を通じて、見聞を広げることは良いことだと強く感じた。
- ・日本の大学生と一緒に活動する中で、日本人特有の親切さや配慮の心を学ぶことができた。地下鉄に乗る時、降りる時、エスカレーターを待つとき、周囲の人に配慮をしながらまず譲るという日常の姿から日本人の高い市民意識を学んだ。この文化は速さを重視する韓国の友達に教えてあげたい。
- ・帰国後は、韓国食の優秀性と日本食の優秀性の違いを説明し、両国の伝統食と現代食についての情報を広めたい。それを通してより多くの人々に優秀性を知らせたいと思う。
- ・このプログラムを通じて日韓両国政府の政府が数多くの活動をしていることを知った。本プログラムのように青少年・大学生の文化交流をはじめ、民間外交の部分で努力をしているという点を帰国後に広めたい。また、日韓の国民がもつお互いに対するの反感が文化的な違いに起因するものだとわかり、帰国後には本プログラムで感じた両国の文化がもつ共通点と違いを見て感じたままに広めたい。